

魅力的な都市として輝きを放つ札幌。  
そこには、市民や観光で訪れる方のために  
力を尽くす人々の姿があります。  
このページでは、札幌の魅力を  
陰ながら支える“匠”の思いに迫ります。

【シリーズ】  
札幌の魅力を  
育む  
匠たち  
たくみ



第6回

寒い中、待つ人のために市電を止めるわけにはいかない

竹で出来たササラと呼ばれる道具で市電の線路を除雪する「ササラ電車」。新雪を勢いよく掃き飛ばして走る姿は、冬の風物詩になっている。そんなササラ電車の整備、運転を担当するのが河野さんだ。ササラは2mm角に割いた竹を束ねた箒のようなもの。

車両に装着するため、ササラ1本1本にくぎを打っていく。ひと冬で使うササラの数は約8千本。その全てに河野さんから7人の運転手が手作業でくぎを打つというから驚きだ。「くぎを打つ深さや角度をそろえることが大切で、力の加減は体で覚えるんです」と

冬の市電の運行を支える

河野 慎吾 さん

昭和55年生まれ。市電の線路を除雪するために走るササラ電車の運転・整備に携って6年目を迎える。夏は営業車両を運転する。

河野さん。打ち直すと竹が傷つき折れやすくなるため、1回で仕上げるのが強度を保つ秘訣だ。さらに、運転席でのササラの操作も経験が求められる。除雪はササラの回転速度を調整して行うが「雪質やササラの消耗具合によって雪の飛ぶ距離が全然違うんですよ。歩行者や車に雪がかからないよう注意するので緊張の連続です」。冬の間は点

検を兼ねて朝4時から2時間、日中は天候に応じて何時間も作業にあたる。それでもひた向きに取り組むのは「寒い中、停留場で待つ人のために、市電を止めるわけにはいかない」という思いからだそう。札幌の市電は、10年以上休むことなく運行している。河野さんは今日も市民が安心して市電を利用できるように、出勤に備える。

ササラの  
ミニ知識

大正14年に札幌で生まれ、  
脈々と受け継がれるササラ

ササラは鍋などを洗う竹製のたわしをヒントに、札幌の鉄道会社の社員が発案した。長さ28.5cm、直径約3.5cmの円筒型で、原料にはよくなる丈夫な竹を使用。約90年たった今でも竹に勝る素材はないのだそう。



電車事業所 車庫内で停車中の電車などを見学できます

所在地 中央区南21西16  
見学時間 平日11時～15時、土・日曜、祝・休日  
9時～15時。作業により、安全が確保できない場合などを除く  
申込 事前に電車事業所へ電話  
交通機関 市電「電車事業所前」下車、徒歩1分  
詳細 ☎551-3944  
ホームページ [www.city.sapporo.jp/st/shiden/sidenromen.html](http://www.city.sapporo.jp/st/shiden/sidenromen.html)

